

## 遺跡見学会報告 森町鷺ノ木遺跡を訪ねる

日 時 令和4年7月17日（日）10時00分～12時00分  
 場 所 森町鷺ノ木遺跡・発掘調査事務所  
 参加者 17人

### 2.1 森町遺跡発掘調査事務所を出発

あいにくの雨天でしたが、森町遺跡発掘調査事務所には一般参加の10人を含む17人の参加者が集合しました。野村代表の挨拶の後、分乗して鷺ノ木遺跡に向かいました。



図2.2 森町遺跡発掘調査事務所で野村代表から開会挨拶

### 2.2 片山会員から説明を受ける

森町教育委員会の片山弘喜会員から鷺ノ木遺跡の説明を受けました。

鷺ノ木遺跡は2003年に北海道縦貫道の建設中に発見されました。ストーンサークル全体が駒ヶ岳の火山灰（Ko-d）に覆われていたため、試掘調査でも発見されませんでした。北海道教育委員会や森町教育委員会の担当者の努力と北海道道路公団の協力により、工法の変更が可能となり遺跡は現地保存されることになりました。

ストーンサークル発見時は埋蔵文化財包蔵地「鷺ノ木5遺跡」として登載されていましたが、2006年に「鷺ノ木遺跡」として国の指定を受けました。



図2.3 片山会員から鷺ノ木遺跡の説明を受ける

### 2.3 保存のための調査

現在、鷺ノ木遺跡ではストーンサークルの保存を目的として石材の劣化や霜雪害の影響を調べようとしています。発掘調査以前は厚い火山灰に覆われていたため良好な保存環境が保たれていましたが、地表に石材が露出することで気温や湿度の影響を大きく受けるようになり、適切な保存のための措置が必要となりました。今回の見学は、整備前のストーンサークルの全景をみることのできる最後のチャンスかもしれない、とのことでした。

### 2.4 36mのストーンサークル

ストーンサークルの直径は約36mで、配石は外環と内環の二重構造となっています。片山会員によると必ずしも配石の単位があるわけではないようです。外環の配石と内環



図 2.1 鷺ノ木遺跡全景

の配石では配列の方法に違いがあるそうです。

## 2.5 1km の距離を運ばれた石

参加者からは「ストーンサークルに使用された石はどこから運ばれてきたのか」という質問がありました。これまでの調査でわかっていることは、約 1km 離れた桂川原産の岩石が運ばれているということです。重い石を 1km 離れた川底から高台の鷺ノ木遺跡まで運搬する労働力をどのように確保したのでしょうか。

## 2.6 トンネル工事

鷺ノ木遺跡を保存するため、本来はオープンカットされる予定だった台地にトンネルを掘削することとなりました。トンネルの天井部から鷺ノ木遺跡の地表面まではわずか 7m しかありません。工事そのものが困難なだけではなく、工事の振動や衝撃から遺跡を守る必要もありました。そのため、人力と機械力をハイブリッドに使用する前例のない工事が行われました。工事の工夫は鷺ノ木遺跡入口の看板にも示されています。

## 2.7 森町の考古資料を集積した展示室

最後に、森町遺跡発掘調査事務所で資料見学を行いました。調査事務所は展示室も兼ねており、鷺ノ木遺跡の出土遺物だけではなく、森町内の遺跡で出土した考古資料を展示しています。学芸員の高橋毅さんや片山さんの手作りによる展示で、森町の遺跡の概況がバランスよくまとめられていきました。

(記録：石井淳平)



図 2.4 鷺ノ木遺跡入口に設置されたトンネル工事の説明版



図 2.5 展示室